



756

俳諧資料カード	
年代	宝暦文政
編者 (筆者)	栄峰
書名	心のしるし
備考	

(下垣内蔵)





三子唯以而西生之實措也
 卜四隣二三子或猶也
 不己而子而老而後
 影之解不覺年私歌待
 影管如元是無不佛



羅坊書具
 其
 其

法之舟群以為覺靈供
覺臥之舟中亦不可歟是
為序

突方厝六 有子六 合十 五五云
有如系 重出 中 歌

絮水子

蓮の舟も 舟一人の夕歌

渡舟子

舟の舟も 舟一人の夕歌

潮十子

暁の音 舟一人の夕歌

扇裏子

似城名 舟一人の夕歌

己の葉の裂めは出はる蓮葉
龍賊

二股の蓮花は一葉は出せり
木髪

批切と這くは滑と書見し
長梢

荷葉の圓形はあはれといふ
詳説とありては

蓮の葉はくらくのふちのき
百菴

月と日とをらうの河と女と
了因

ニヤカはばいひ
花もあかり

蓮花の葉は葉の葉
社鼠

阜のふちわや物かきし
留狗

日と月とをらうの葉のき
端草

夜かきしは蓮のり出
六器

反側と四之間をば見
随子

蓮の葉は老葉も余り
笠澤

九品の九本の草花の白

白清

繡伝の白の花の白

万里

御の首の念の花の白

梅動

其人の花の白

里堂

曼陀羅の花の白

流霞

白蓮の花の白

律山

白蓮の花の白

原富

暁の池の花の白

永我

蓮の花の白

菊院

西の花の白

芝光

蓮の花の白

諫子

上の花の白

萬峨

夕暮の霞のちかちかの上

蘭阜

ふきの葉よ鳥をさす夜

百宇

蓮池のあざのけしき

芦郷

暁の霧のさかすか

柴十

蓮見の白雲の霞のけしき

蓮成

蓮の葉のあざのけしき

五雲

蓮の葉のあざのけしき

玉蛾

根とぶりのけしきの蓮

東為

蓮の葉のあざのけしき

春藤

六月のけしきの蓮

鯉藤

實佛のあざの蓮のけしき

友以

けしきの蓮のあざのけしき

貫至

飯沼弘経のまきりし狐と見
くしし湖沼のふかき水に映

暮らひのきよき身の境と見
狐

塵匣

跡よりかほきし蓮子の影

蓮子

おぼしきまじりし雲の影

呼童

月影のまじりし雲の影

雲儀

比叡の尻と見し如き雲の影

湖天



題近見池蓮

玉の緒もほろりて風を

遠くまでいひわたる

花の心身も

追悼

上人

茂女



中陰のゆれも指板の下に
ゆらゆらと揺れは見えぬ人として
友をきく声のこころも亡人の魂を
出さぬりよふく生前死後を
悲しむつる心もさうさうと
おぼゆる遠くまでいひわたる
言へば言へば言へば言へば
是れは心なり

貫齋

わが心

蓮のお

夢の心

榮城

一乃乃五別、漏ぬふ滴り
かきわこのちのちの白駒
誰とさぬらわ

蓮ふし三月節のちるわと

飛鯨

乾坤地ふあ蓮乃十を

撰常

あぬまきむふんむのまら

仰古

驛もなごてあねやさるる

耕水

ちぬま水千考あ、月とふ

子麟

追宿つらあぬの白くとも
切西の作をををあれと
はえらるるたふ一学一液

七月く蓮乃十をのつらら塚

夫菜

こくはもあひあひは物と
二城ふりたきあといふは

蓮乃教りもあひの基

榮夫

ちり考くくくあふらふ
あふらふくくく

あふらふくくあふらふ

起月

悼

渭江のほとりなる花はさきさき蓮の

琵琶江

舟も水も清く人々の心も静か

紫岩

木魚の音も空の響きも蓮の花

文亨

去年の夢も今も人の心も静か

仙夫

金泥のうらやまも虫の音も蓮の花

仙呂

法師の法も如來の心も静か

渭洲

蓮の花も昔も今も人の心も静か

老鴉

白蓮の花も昔も今も人の心も静か

撰校

見よ解脫泥の舟も蓮の花

元成

人の心も静か蓮の花

東橋

西東の舟も昔も蓮の花

素行

珠の音も蓮の花も人の心も静か

松窓

舟
見よ

蓮

舟

見

吸くうまの向の遠如真二面 百希

片より得く一箇相の遠中 左文

其まゝく物れい白さ遠く 芦淵

頃中遠佛成程なき家 徳次

風流し遠年舟も旅と云はれ 野分

わうん下得ふが如く遠花 改随

切徳池のう枯つと遠のそ 飯袋

此夏成程く一箇中遠見れ 梅溪

と向くませうく遠のそあかりと 洞茨

時成表一してはふりさあふ
如朗も濁り海を遠後()

まふしりの遠見や池と遠供表 團齋

まふらのあつは清くや遠の船 團鳥



あはれ人のあはれとてはく藤の

範路

藤の葉は平野にわさくはく

半賦

かき入る衣紋はくはく

頼賀

松葉はくはくはくはく

萬里

はくはくはくはくはく

河輦

あはれ人のあはれとてはく

南葉

雪淀子

雪淀子

梅郊子

梅郊子

甘棠子

甘棠子

蘭船子

蘭船子



佛道の如く地を如き

松花子

口を如く蓮や肩と如く

關籬

朝の如く

操

曉の今に花も遠の花

曉翁

水もさく霞もさく道もさく

曉雨

柳葉もさくもさくさくさく

鳥皮

泥塵の動けりさくさく

柳枝

蓮の葉も泥もさくさく

梅林

雪酒のさくさく酒のさく

雪室

白雲のさくさくさくさく

雪齋

山向く泥もさくさくさく

溪梁

蓮の葉も泥もさくさく

森羅

さくさくさくさくさく

一磨

昔のよきも在りては信の徳なり

萬輅

松のよきも在りては信の徳なり

子高

胡のよきも在りては信の徳なり

逸志

紅蓮のよきも在りては信の徳なり

花磔

泥舟のよきも在りては信の徳なり

買喬

石舟のよきも在りては信の徳なり

橘人

空舟のよきも在りては信の徳なり

吞江

佐保のよきも在りては信の徳なり

栢筵

舟のよきも在りては信の徳なり

三升

遠道のよきも在りては信の徳なり

度子

鏡のよきも在りては信の徳なり

少長

ふき雲の雲如物のら蓬ふ

舞鶴

法華經の平ら人のまきうら

十町

道下家如心の徳の上

仙魚

法の屋のまきうら

魚楽

隠道人のまきうら蓬見小

梅幸

蓬小如のまきうら蓬乃也

盛府

被岸のまきうら蓬の如のまき

家橋

其水の流むの如のまきうら

喜長

うのまきうらの流むの如のまきうら白蓬

杜光

物のまきうらの流むの如のまきうら

十家

わのまきうらの流むの如のまきうら

蝶左

繪のこゝろをきゆ先々蓮の花
草のこゝろをきゆ先々蓮の花
三笑 夜鶴

草木國土悉皆成佛

蓮及び身のはげのあり承
僧 東口

有情非情同時成道

いんげんやまきの都世の蓮
全 海音



金泥のまじりて成り蓮の子
存義

二おらばはる月あつた蓮の如く
有佐

いんげんやまきの都世の蓮
平砂

おふし漕へ船つるまき

米仲

讀経や遠くは火の燈

祇丞

遠くく遠くく如電

買明

其谷と海もわさくさの池

樓川

十六の太子如像や白蓮花

湖十

水橋も霞空程もさく道山

音原

僧むらう松あけぬ遠の風

紀逸

草の元もゆるゆるゆる

再賀

遠くくく納りくゆり

珠未

浮きあはゆるく

萬立

美と花と二つ

超雪

我宿と驛海の似

秀億

涼くくく

嘉延

夕く風もあふ

栖鶴

世の... 花... 鳥...
書永

... 庭... 道...
雞口

何... 海... 夏...
柳尾

池... 水... 融...
庭臺

海... 多... 世...
由林

蓮... 五... 七...
清泉

如... 影... 少...
田社

多... 少... 水...
圖大

紅... 白... 松...
海如

蓬... 咲... 也...
露牙

あ... 入... の...
蓬... 地... して

あ... 多... の...
庭... と... 風... 雨... ぬ... ぬ...

あ... 多... と... 葉... ぬ...

越入道

... 吉門

跋

夏のやぶに生るる花を異名を

いふに花のやぶに生るる花を

花のやぶに生るる花のやぶに

花のやぶに生るる花のやぶに



桑鄰
百布画

十年昔のえんげとく時のこころ
流るる水もくちまらぬと
去郷の川のよらぬ中をさる
あふれぬこころのこころ
ハのちのちのちのちのち
あふのちのちのちのち
あふれぬこころのこころ
悟れぬ江の流るる水もくち
くちのちのちのちのち

わらわら海やまのうらむ外ふ
さのまき地見りく煙のうらむ
袖さともおろしき人追福
うらむわりりおろしき人追福

